

令和3年度  
定時社員総会議案書

日 時 令和3年6月19日(土) 13時30分

会 場 大阪府社会福社会館

公益社団法人 大阪介護福祉士会

公益社団法人大阪介護福祉士会  
令和3年度定時社員総会議事次第

日時：令和3年6月19日（土）  
13時30分  
場所：大阪府社会福社会館

- 1 会長挨拶
- 2 議長・副議長選出
- 3 開会
- 4 議事録署名人指名
- 5 議案審議

第1号議案 令和2年度事業報告の承認の件（案）

第2号議案 令和2年度決算報告の承認の件（案）

第3号議案 役員選任の件（案）

- 6 その他

閉会

**【第1号議案】 令和2年度事業報告の承認の件（案）**  
令和2年度事業報告

（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

令和2年度は年度開始から新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中でのスタートとなりました。緊急事態宣言が発出され不安な中で会員の皆様は介護実践を展開されてこられましたことに敬意を表します。本会も7月から研修を開始しましたが、開始前から研修終了に至るまで、感染対策を徹底し研修受講者が安心して受講できる環境に最後まで努めました。

次年度はオンラインを活用しての研修実施の整備も進めていきたいと思っております。

**I 法人業務（総会・理事会・各種会議）**

**1. 法人運営**

**（1）理事会**

- 第1回理事会 令和2年5月14日  
令和元年度事業報告及び収支決算の承認  
諸規程の改正  
定時社員総会の開催並びに決議事項等
- 第2回理事会 令和3年3月21日  
令和3年度事業計画  
令和3年度事業予算  
諸規程の改正

**（2）定時社員総会**

- 定時社員総会 令和2年6月13日  
令和元年度事業報告及び収支決算の承認

**（3）三役会・運営委員会**

**①三役会**

4月14日・5月12日・6月9日・7月13日・8月7日・9月14日  
10月12日・11月10日・12月14日・1月12日・2月10日・3月10日

**②運営委員会**

4月27日・5月25日・6月22日・7月27日・8月24日・9月28日  
10月26日・11月23日・12月28日・1月25日・2月22日・3月22日

公的委員の依属状況【順不同】

団体名	
大阪府高齢者保健福祉計画推進審議会委員	浅野幸子
大阪府国民健康保険団体連合会	浅野幸子
大阪府介護保険審査会委員	浅野幸子、鎌田勝二、吉田弘樹
大阪府災害福祉広域支援ネットワーク	浅野幸子
大阪府社会福祉協議会評議員	浅野幸子
大阪府社会福祉協議会運営適正化委員会	浅野幸子
大阪府福祉人材センター運営委員会	浅野幸子
大阪市社会福祉審議会委員	浅野幸子
大阪市社会福祉研修・情報センター運営委員会	浅野幸子
介護の職場・担い手創出事業	浅野幸子
大阪市社会福祉人材養成連絡協議会	浅野幸子
公益社団法人大阪社会福祉士会理事	浅野幸子
公益社団法人大阪介護支援専門員協会理事	森本芳子
公益社団法人大阪看護協会地域包括ケア委員会	浅野幸子
大阪市社会福祉研修・情報センター作業部会	浅野幸子
大阪医療秘書福祉専門学校教育課程編成委員会	浅野幸子
大阪府災害派遣福祉チーム（大阪 DWAT）	浅野幸子、重松義成、谷岡綾子、西尾いづ穂、飯田昌一、納忍、
	吉田直人、中村由香、野崎勝、坂上衣理加、渡部貴司子、
	池田奈津子
介護認定審査会(大阪市都島区)	青柿昌子、荒木大輔、今岡望
介護認定審査会(大阪市北区)	浅野幸子、中山ムツミ
介護認定審査会(大阪市西淀川区)	森本芳子
介護認定審査会(大阪市阿倍野区)	巽行正、林明美
介護認定審査会(大阪市淀川区)	磯崎千景、山根奈美
介護認定審査会(堺市)	森下敬子、渡部貴司子、阿波野達也、寺尾昌也、納忍、
	西尾いづ穂、田中裕美、山口淳子、小関明子
介護認定審査会(東大阪市)	重松義成、黒田浩二、谷合みどり、大山明美、上山小百合、
	法橋幸子、田中貴義、東野和徳、松葉修孝、山下よしの、
	河邊正裕、
障害区分認定審査会(堺市)	藤島維仁、前田元気、山下よしの、渋谷光美

## Ⅱ各部事業報告

### 1 組織部

専門職能団体として、社会的地位の向上を図るため、広く府民に介護に関する情報提供を行い、介護及び介護福祉士の啓発に努めるとともに、会員の入会促進等を図りました。

#### (1) 会員拡大への取り組み

コロナ禍において令和2年度は施設や事業所へ訪問することが厳しい状況であったため、電話やメールなどを活用し、理事や推進委員の協力を得て、新規会員獲得に努めました。

また、本会主催の研修会やイベント等での積極的な入会案内を行い、今年度も継続して研修受講と併せての入会を呼びかけ、入会時からの研修受講料の会員割引を実施し会員拡大に努めました。

	正会員数	新規入会者数	賛助会員数	個人賛助会員数
計 画	2,300名	200名	80団体	20名
実 績	2,116名	123名	72団体	6名

※1)実績数は令和3年3月31日現在(会費納入者)の正会員数及び賛助会員数

※2)大阪府の介護福祉士資格取得者数は123,939名で本会加入率は約1.7%

#### (2) 推進委員登録

本会活動並びに支部活動がより円滑に運営できるよう推進委員の養成研修を実施しました。研修受講者が本会の活動に積極的に参画することで、会員自らが会を構成・運営する一員としてモチベーションを高め、会の活動を活発にし拡大するための役割を担う推進委員となる研修会を実施しました。

#### (3) 本会の府民への周知活動と介護の普及・啓発

府民に対して、本会の活動をより広く知って頂くため、公式ホームページやFacebook等を随時更新しました。さらに今年度はInstagramを開設しコロナ禍におけるPR活動の拡充を積極的に行い、幅広い世代に対して介護に対する周知活動を行いました。

認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る優しい地域づくりを目指す「認知症キャラバンメイト養成研修」を大阪府と共催で実施しました。

(4) 社会福祉施設や介護福祉士養成校・各種職能団体等との連携・協力

今年度はコロナ禍で社会福祉施設や養成校・各種職能団体との連携・協力を図ることが難しい状況であったため、社会福祉施設や養成校に対して入会説明会を行うと共に、研修やイベントでの積極的な協力を求め、各関係団体との連携・協力体制の構築に努めました。また、随時賛助会員の案内も行い、総合的なPR活動を行いました。

(5) バリアフリー展への参画・「介護の日」普及啓発事業等の開催

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響でバリアフリー展は中止となりました。11月7日に実施した「介護の日」のイベントでは特別シンポジウムを開催し、コロナ禍における介護の現状や、衛生材料不足、物品拡充のための方法、介護福祉士養成施設国家試験受験延長などについて意見交換を行いました。当日のアンケートからは、職員の待遇改善や魅力ある仕事であること、介護の仕事にチャレンジしたいという思いになる広報活動や本会に対する期待を改めて知ることができました。

(6) 潜在介護福祉士研修

日程		受講者数
①	令和2年12月18日	39名
認定調査員になるためのプレ研修	開催場所：大阪府社会福祉会館	
講師：大阪市社会福祉協議会 古賀 淳子氏、森岡 真由美氏		

(7) 訪問介護における実地指導

日 程			受講者数
令和2年12月16日（実地指導ガイダンス）			6名
①令和2年9月24日	②令和2年10月2日	③令和3年3月22日	延べ18名
実施場所	大阪府社会福祉会館		
講師：中田行政書士事務所 行政書士 中田義弘氏、行政書士 伊藤誠氏、大阪介護福祉士会会長 浅野幸子、会員 前田元気			

□総 括

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で組織部としての活動は縮小せざるを得ませんでした。そのような状況ではありましたが、事業計画の柱でもあります『潜在介護福祉士に対する復職支援』として新たに「認定調査員になるためのプレ研修」を実施しました。これは令和2年度の介護保険制度改正で、一定条件を満たした介護福祉士も認定調査員として活動できることに伴い、本会として新たな活動領域の展開と職域の拡大を図ることを目的に大阪市社会福祉協議会との共催で実施しました。

また、大阪府下の地域で認知症の人を支える取り組みとして、大阪府との共催により「認知症キャラバンメイト養成研修」を開催しました。当日は会員含め一般の方の参加もあり、アンケート内容からも満足度の高い研修であることがわかり、次年度も引き続き開催し大阪府の認知症高齢者施策に協力していきます。

会員拡大の取り組みとして、これまでは施設や事業所に出向いて入会説明を行っていましたが、コロナ禍において訪問することが出来ませんでした。そこで、研修事業を活用しその都度、受講生に向けて入会説明を行いました。本会の「ファーストステップ研修」は介護報酬の加算となる「認知症介護実践リーダー研修」と読み替え可能研修となっています。コロナ禍においてWライセンス取得ができることを入会説明時にアナウンスすることで入会につながったケースもありました。

11月の「介護の日」の普及啓発事業として「コロナ禍におけるこれからの介護について考える」と題し特別シンポジウムを開催しました。これからの働き方について様々な視点から介護福祉士の未来を考える時間とするために、全員参加型シンポジウムとしました。参加者の声を直接聴くことで、コロナ禍での不安を払拭し、介護福祉士の専門性を高め会員一丸となってそれぞれの場において活動することの必要性を確認しました。

## 2 支部活動

令和2年度は新型コロナウイルス感染蔓延防止のためすべて中止しました。

令和3年度は更なる研修の充実や会員同士の交流を図れる取り組みを行い、会員にとって実りある支部活動の運営を行います。

### 3 事業部

#### (1) 公益事業

##### ① ファウンデーション研修 全20日

日 程					
日程	内容	受講者数	日程	内容	受講者数
①令和2年8月1日	接遇研修 (基本)	12名	⑩令和2年12月9日	コミュニケーション技術(基本)②	17名
②令和2年8月15日	尊厳	12名	⑪令和2年12月18日	福祉用具の意義と活用	13名
③令和2年9月19日	職業倫理	12名	⑫令和2年12月22日	認知症ケア (基本)①	8名
④令和2年9月30日	法律と関連する 制度政策①	13名	⑬令和3年1月7日	認知症ケア (基本)②	6名
⑤令和2年10月19日	法律と関連する 制度政策②	16名	⑭令和3年1月26日	基本研修 (1日研修)	8名
⑥令和2年10月24日	介護過程	13名	⑮令和3年1月29日	記録と報告①	16名
⑦令和2年10月31日	災害研修 (基本)①	18名	⑯令和3年2月4日	記録と報告②	16名
⑧令和2年11月5日	コミュニケーション技術(基本)①	16名	⑰令和3年2月15日	福祉用具の意義と活用	7名
⑨令和2年11月11日	接遇研修 (応用)	9名	⑱令和3年2月26日	感染症	13名
⑩令和2年11月13日	災害研修 (応用)②	19名	⑳令和3年3月17日	身体拘束 虐待	19名
実施場所	大阪府社会福祉会館、市立社会福祉センター、NLC 新大阪				
講師：生活介護研究所 福野初男氏、ケア研究会 PAD Lab. 代表 土井敏之氏 看護師 七田つたえ氏、大阪社会福祉士会副会長・大阪介護福祉士会理事 矢島繁一氏 大阪健康福祉短期大学 准教授 伊藤明代氏 大阪介護福祉士会会長 浅野幸子、副会長 重松義成、理事 谷岡綾子					

##### ② ファーストステップ研修 15日

日 程			受講者数
①令和2年11月2日	②令和2年11月13日	③令和2年12月5日	12名
④令和2年12月6日	⑤令和2年12月19日	⑥令和3年1月10日	

⑦令和3年1月11日	⑧令和3年2月28日	⑨令和3年3月1日	
⑩令和3年3月19日	⑪令和3年3月20日	⑫令和3年4月11日	
⑬令和3年4月30日	⑭令和3年5月1日	⑮令和3年5月14日	
実施場所	大阪府社会福祉会館、市立社会福祉センター、大阪市社会福祉・研修情報センター NLC 新大阪		

※⑬⑭⑮は令和3年度に実施予定。

講師：あおば社会保険労務士法人 社会保険労務士 新井淳子氏、  
特別養護老人ホーム松寿苑 施設長 石原正三千氏、同朋大学社会福祉学部 准教授 牛田篤氏、  
兵庫大学生涯福祉学部 教授 小倉毅氏、ホッとスペース中原 代表 佐々木炎氏、  
同朋大学社会福祉学部 教授 下山久之氏、大阪人間科学大学人間学部 准教授 土肥茂幸氏、  
小規模多機能居宅介護支援事業所 心 理事長 村田美穂子氏、  
大阪社会福祉士会副会長・大阪介護福祉士会理事 矢島繁一氏、  
大阪介護福祉士会会長 浅野幸子、理事 谷岡綾子

### ③ 介護福祉士実習指導者講習会

第1回		第2回	
日程	受講者数	日程	受講者数
①令和2年7月7日	11名	①令和2年11月10日	25名
②令和2年7月15日		②令和2年11月29日	
③令和2年8月3日		③令和2年12月9日	
④令和2年8月18日		④令和2年12月24日	
⑤令和2年9月2日		⑤令和3年1月13日	
第3回		実施場所	
①令和3年1月30日	14名	大阪府社会福祉会館、市立社会福祉センター 大阪市社会福祉・研修情報センター NLC 新大阪	
②令和3年2月13日			
③令和3年2月20日			
④令和3年3月6日			
⑤令和3年3月7日			
講師：奈良県介護福祉士会会長 西本房乃氏、滋賀県介護福祉士会理事 池谷美紀氏、 大阪介護福祉士会会長 浅野幸子、副会長 重松義成			

### ④ 認知症介護実践者研修

第1回		第2回	
日程		日程	
①令和2年7月9日	⑤令和2年8月2日	①令和2年12月9日	⑤令和3年1月12日

②令和2年7月16日	⑥令和2年8月19日	②令和2年12月18日	⑥令和3年1月21日
③令和2年7月20日	⑦令和2年9月5日	③令和2年12月22日	⑦令和3年2月8日
④令和2年7月29日	⑧令和2年9月21日	④令和3年1月8日	⑧令和3年2月23日
受講者数	99名	受講者数	62名
実施場所	大阪府社会福祉会館		
認知症介護指導者：市村眞由美氏、小山雄亮氏、西田由香里氏、引野好裕氏、福井梨恵氏、堀尾直子氏、原美穂子氏、平野亨子氏、村上宏三氏、矢野由枝氏、吉川洋子氏			

⑤ 認知症リーダー読み替え研修

日程	令和2年12月14日	受講者数	10名
実施場所	大阪府社会福祉会館		
講師：クリニックいわた 医師・同志社大学社会福祉学科 非常勤講師 安井敏裕氏			

⑥ 介護教員講習会 40日

日程			
①令和2年7月31日	②令和2年8月1日	③令和2年8月13日	④令和2年8月14日
⑤令和2年8月15日	⑥令和2年8月27日	⑦令和2年8月28日	⑧令和2年9月18日
⑨令和2年9月19日	⑩令和2年9月29日	⑪令和2年9月30日	⑫令和2年10月18日
⑬令和2年10月19日	⑭令和2年10月29日	⑮令和2年10月30日	⑯令和2年10月31日
⑰令和2年11月4日	⑱令和2年11月5日	⑲令和2年11月12日	⑳令和2年11月13日
㉑令和2年11月21日	㉒令和2年11月22日	㉓令和2年12月5日	㉔令和2年12月6日
㉕令和2年12月19日	㉖令和2年12月20日	㉗令和2年12月26日	㉘令和2年12月27日
㉙令和3年1月10日	㉚令和3年1月11日	㉛令和3年1月16日	㉜令和3年1月17日
㉝令和3年2月6日	㉞令和3年2月7日	㉟令和3年2月14日	㊱令和3年2月15日
㊲令和3年2月21日	㊳令和3年2月22日	㊴令和3年2月28日	㊵令和3年3月1日
受講者数	31名	延受講者数	394名
実施場所	大阪府社会福祉会館、市立社会福祉センター、NLC 新大阪		
講師：東大阪大学短期大学部 教授 梓川一氏、兵庫大学生涯福祉学部 教授 小倉毅氏、大阪人間科学大学人間科学部 教授 岡田雅樹氏、日本生活支援学会会長 黒澤貞夫氏、同志社大学社会学部 教授 小山隆氏、C&L法律事務所 弁護士 佐々木章氏、同朋大学社会福祉学部 教授 下山久之氏、大阪人間科学大学人間科学部 教授 須河内貢氏、石田クリニック MSW カウンセラー 竹内一夫氏、C&L法律事務所 弁護士 豊川義明氏、大阪人間科学大学人間科学部 教授 武田卓也氏、C&L法律事務所 弁護士 豊川義明氏、大阪人間科学大学人間科学部 准教授 土肥茂幸氏、神戸女子大学文学部 教授 三宅茂夫氏、関西学院大学 名誉教授 安井宏氏、大阪介護福祉士会副会長 重松義成			

⑦ サービス提供責任者研修

日 程	①令和3年2月26日	受講者数	9名
	②令和3年3月15日		10名
	③令和3年4月16日		10名
実施場所	市立社会福祉センター		
講師：一般社団法人大阪府作業療法士会会長 関本充史氏、 大阪介護福祉士会会長 浅野幸子、副会長 重松義成、理事 谷岡綾子、会員 前田元気			

⑧介護技術研修（令和元年延期分）

日 程		延受講者数
①令和3年3月23日	②令和3年3月24日	25名
実施場所	大阪市立社会福祉センター	
講師：大阪介護福祉士会会長 浅野幸子、副会長 重松義成		

(2) 収益事業

① 介護福祉士国家試験受験対策講座

日 程	①令和2年12月26日	受講者数	19名
	②令和3年1月10日		19名
実施場所	大阪府社会福祉会館、NLC 新大阪		
講師：大阪介護福祉士会副会長 重松義成			

② 介護福祉士全国一斉模擬試験

日 程	令和2年12月6日	受講者数	24名
実施場所	NLC 新大阪		

□ 本年度の総括

令和2年度は、公益事業及び収益事業として、日本介護福祉士会の生涯研修制度に基づいた研修と大阪介護福祉士会独自の研修を行いました。

コロナ禍において、研修会場を確保し、感染対策を実施しながら、対面式の研修を実施しました。公益事業として、「介護福祉士実習指導者講習会」を年3回、科目単位制をとっている基礎研修にあたる「ファンデーション研修」を年20回、「介護教員講習会」全40回を年1回、職場のリーダーの育成が目的である「ファーストステップ研修」を年1回実施。「認知症介護実践者研修」は年2回、「サービス提供責任者研修」を年1回実施しました。また、コロナの影響で延期していた令和元年度分の単発研修の「介護技術」研修を実施しました。

収益事業として、「介護福祉士国家試験受験対策講座」、「介護福祉士全国一斉模擬試験」を実施しました。

今後も感染対策を講じ、対面式の研修を開催するとともに、オンライン形式の研修の導入も見据え、準備を進めます。そして、公益事業の運営と介護福祉士、府民のニーズにマッチした研修や収益事業に取り組みます。研修等案内を早期に周知し、多くの方々に受講していただけるよう努めます。

#### 4 調査研究部

今年度の運営方針に沿って、調査研究のための勉強会や各種研修後アンケートを実施し、介護福祉士の現状の把握を行いました。

##### (1) 重点項目

重点項目の実態調査については、各種研修会で実施したアンケート集計を順次ホームページ上で公開しました。また、書籍・資料の管理・提供については、適時購入を行い、充実を図りました。書籍貸し出しについては、新刊書籍の案内と共に本会ホームページにより情報発信を行いました。また広報誌を年2回刊行し、定期的に会員への情報提供を実施しました。

##### (2) 事例研究勉強会

事例研究の基礎から事例研究方法、研究過程事例をもとに学ぶことができました。今年度は学会発表まで進めることができませんでしたが、本総会において研修会の成果について発表することとしました。今後は、多くの会員が調査・研究に積極的に取り組めるよう支援を行います。

##### 事例研究勉強会

講師	井口 知也 氏 大阪府作業療法士会学術 部代表	延受講者数	58名
開催場所	大阪府社会福祉会館		
第1回目	令和2年11月12日	「事例研究の目的と倫理的配慮」	
第2回目	令和2年12月10日	「研究方法の理解」	
第3回目	令和3年1月14日	「課題事例を解く」	
第4回目	令和3年2月10日	「自職場の事例を取り上げる」	
第5回目	令和3年3月11日	「研究過程の整理、事例研究発表」	

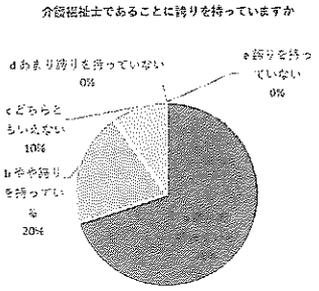
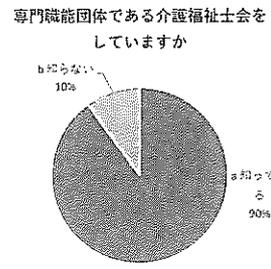
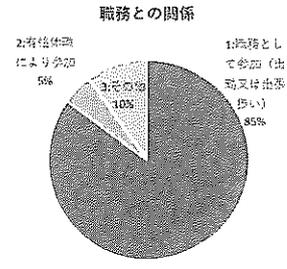
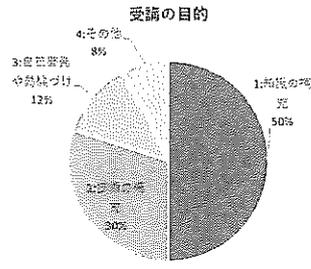
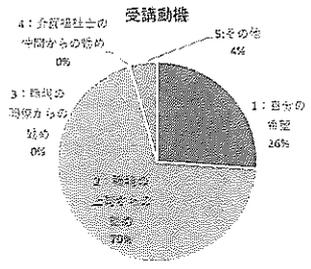
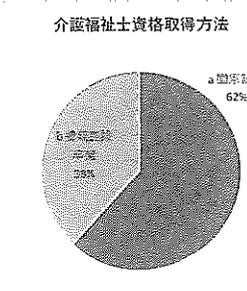
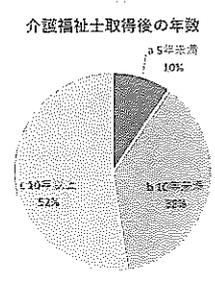
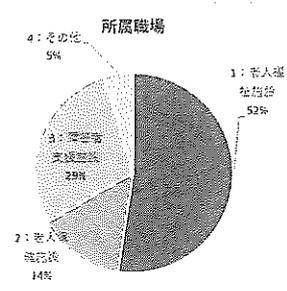
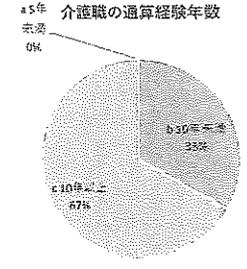
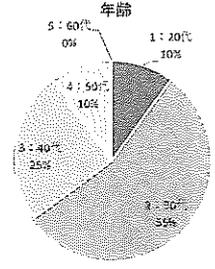
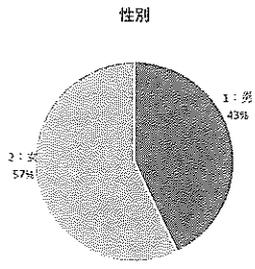
##### (3) 本年度の総括

多職種連携の一環として一般社団法人大阪府作業療法士会の協力のもと、11月より介護実践の基礎をつくる「事例研究」勉強会を実施しました。根拠に基づく介護実践を学ぶことができました。

今後は、事例研究に加え、量的調査の方法についての勉強会も行う予定です。会員に向けて調査研究の必要性を啓発するとともに、介護人材の定着と質の高い介護福祉士の育成に取り組み、それと同時に会員の調査研究に対する意識の醸成や、会員と共に介護研究を進めることができる体制づくりを今後も目指したいと考えています。また社会の状況に応じた情報発信ができるよう広報活動にも取り組みます。

《調査報告》 令和2年度大阪介護福祉士会アンケート集計  
 □第2回実習指導者講習会

I.令和2年11月10日 第2回実習指導者講習会



#### 問. 介護の基本

- 介護の基本がなければ指導することはできないと感じる。繰り返し基本を学び、現状の職務にも活用していきたい。介護の概念の変化
- 法改正や求められるものも年々質の高いケアに移行していることが良く分かりました。現場でも求められるものが数多くの方に響く為にも伝える事、実践することが今、私に出来る事だと感じます (OJT 含め)。
- 現状では実習生や技能実習生を受け入

れた経験がないが、今後の受け入れに向けて、文化の違いや感覚の違いなども頭に入れ、指導に当たる必要性を感じた。

- 自分自身の介護福祉士としての姿を振り返って見つめなおすことができた。制度が変わって自分が学生だった頃とずいぶん違う事が分かった。倫理についてはなんとなく理解していたが、改めてしっかりと考えて職務にあたらな

いといけないとわかった。

#### 問. 実習指導の理論と実際

- 介護実習における流れや、実習指導者としての役割連携の必要性について、詳しく学ぶことができた (カンファレンスなどに参加して、他職種との連携も見えていく)。実習において I・II それぞれ学ぶカリキュラムについて詳しく学べたため、フロアで情報共有し指導に努めたいです。
- 介護実習の目標や基本を理解し指導・受け入れを行う事。障害者支援施設の役割をしっかりと理解し、説明できること。再度、介護技術の学びを行うことなど、指導者になるにあたり、自分の課題ができた。
- 介護福祉士を取り巻く環境は変わって

きていますし、それに、私自身も対応できるようにならないといけないと思います。私自身もっと学び、認定介護福祉士にもなりたいとおもっています。そのためには、まだまだ知識不足なので、しっかり頑張りたいと思っていますので、よろしくお願いします。

- 実際に講師の先生の学生の事例をまじえながらの講義だったのでわかりやすかった。
- 自分が学生時代に実習に行ったことを思い出し、実習を受けるにあたっての仕組みがよくわかった。実際に指導をすることは、本当に責任重大であると痛感した。

#### 問. 介護過程の理論と指導方法

- 新しいカリキュラム内容に沿った介護過程について詳しく学ぶことができた。自分自身が経験した介護過程の実践とは違っていたため、今回学んだ内容と他職場にも伝達し総じて指導で

きるように取り組みます。アセスメントシートのグループワークはとても参考になりました。

- 自分が短大で学んだことと少し変わっている (I-実習、II-実習) 実習

生を受け入れている施設として学べてよかった。介護過程を展開する学生さんへ良いアドバイスが出来るよう、自分自身が日々、一人一人の気になる点を見つけていけるようにしたいと感じる。

- 現場で働くことが多くアセスメントシ

#### 問. スーパービジョンの意義と活用及び学生理解

- 影響を受けるのは実習指導者のみでなく、施設職員・ご利用者・家族、その地域の人々から影響を受けるので、実習生が目指す介護福祉士が明確になれるきっかけになれるように私から施設全体に発信していきたいと思いました。
- 実習生が施設に希望すること、深く知りたいことを聞き取る必要。実習生のその時点での介護に対する理解力も知ること。他施設の様子も聞け、充実した研修であった。
- 実習生の性格や特徴を知る。まずは信頼関係を気付くことで、学生に合った指導方法をこちらが変化をかけて見極

#### 問. 実習指導の方法と展開

- 実習を受け入れるにあたっての流れや準備項目など、普段自分が関わらない事を知ることができ、勉強になったのと、「こんな準備をしていたのか」と驚きました。基本的な部分はあっても養成校によっては異なることやねらいも違うことを知り、現在受け入れている養成校の計画書に目を通し、学習していきます。
- 実習生を受け入れるにあたって、事前の準備が必要だと感じる。実習を受け

入りがなかなか見られずにいましたが今回の研修で見る時間の必要性を改めて感じました。実習指導するにあたり再度しっかりと勉強し知識を身につけて実習生の質問にも答えることができるようにします。

めていくことで学生のモチベーションや良さを引き出す事ができる。教育の質を上げる事で介護の質がどんどん上がっていくことがよく分かる内容でした。

- 指導する相手が外国の実習生かどうか等によっても実習生が持つ悩みなどが違うことも学べた。他受講生とのグループワークで新たな発見があり、自施設でも活かしていけたらと思った。実習生に限らず、新人職員に対しても、何が困っているのかを引き出せるような関わり方や環境を作って根拠のある説明をしていきたいと思った。

入れることで自施設の職員も育成出来、相互に関係しているとの事が印象に残った。より実践的な講義でよかった。

- 「実習指導マニュアル」は必要であると思いました。この秋に実習生を受け入れ指導していますが、スタッフによって指示に少し違いがあるのでは？それが学生を混乱させているのでは？と不安に思っていたところです。学生から指導者の評価も欲しいと思ったこともありました。

#### 問. 実習指導における課題への対応

- 実習を受け入れるにあたって色々な内容を理解しておく必要がわかりました。ただ実習に来た実習生に指導するのではなく、実習課程Ⅰ・Ⅱ内容をしっかりと把握し、それにそって指導する重要性を理解できたため、まずは自分自

身が理解を深め他職員にも伝えていきたいです。

- 施設側、学生側双方の立場や思いを具体的に指導して頂けた。施設としての考えにかたよっていた事に気づかされた。

#### 問. 実習指導者に対する期待

- 失敗を「失敗」として終わらせるのではなく、成功に結び付けるということを知り、今まで自分自身が実習生に出来ていなかった部分だと痛感しました。今後は、「成功」に結び付けられるよう取り組み、この先生で実習が出来て

よかったと思ってもらえるようがんばりたいです。

- 自施設にくる学生ではなく、介護福祉士として後輩を育てるという姿勢で受け入れ、教育していきたいと思う。

#### 問. 在宅介護実習指導等の理論と実際

- 実習Ⅰ・Ⅱのそれぞれの振り返りを行うことができた。中でも生活支援（実習Ⅰ）の「地域を知る重要性」について考えさせられる場面があり、本当に必要だと再認識できた。私自身も働いている所が地域に密着していることもあり、入所者も近辺から来ている人たちばかりであるため、今後もしっかりと情報を集め、活用していきたいです。
- 介護福祉士という資格、立ち位置について、もっとしっかり自信をもって学生を指導していけるようにならないといけないと思った。介護福祉士会の事も勉強したらタイミングがあれば入ってみようかな、と思った。アイスブレイクからも、大阪の身近な知識から地域、生活など目を向けるべきところがたくさんあることを確認した。
- 個別ケアの実践の重要性、コミュニケ

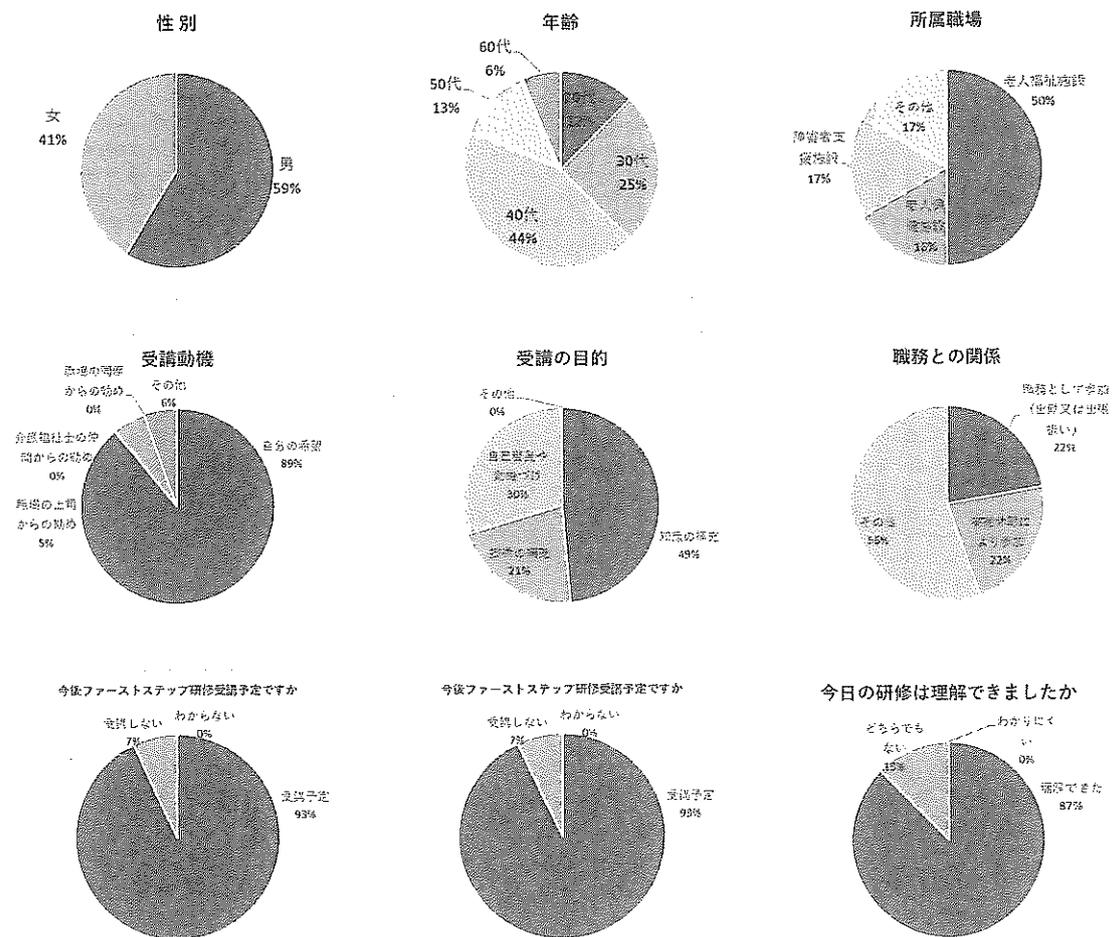
ーションの取り方、メッセージの伝え方、聴き方がとても大事だと学んだ。社会人基礎力と多様なスキルを身につけ「心技体」を継続的に磨きをかけ実践することの大切さを学んだ。

- 介護福祉士という職能団体の価値を高める為に自分自身も意識して情勢の把握や自己啓発等、普段の仕事以外にも稼働する必要があると感じた。
- 介護福祉士の現状をよく理解することができた。私の職場は実習Ⅰの対象で実習日数が少ないので実際に受け入れた際にきちんと指導が出来る人間を育てていかないと考えた。実習生に限らず、新入社員の教育や現場の質を高めていきたいと更に思いました。また、実際に職場の人間関係に悩んでいるので、今日習った方法を活用してみたいと思う。

- 特別養護老人ホームしか経験した事ないため、もっと他の職種も経験しても良いかなと考えた。介護福祉士の役割、大切さを再確認し、もっと勉強していきたいとなった。

在宅の方たちへ関わる心得を学びました。特養で働いていますが、各居室をその人のお家ととらえ、接遇を含めて職員・実習生への学びにしたいです。

## Ⅱ.令和2年度11月13日 災害演習（基本編）



問.研修で学んだこと、印象に残ったことについて教えてください。

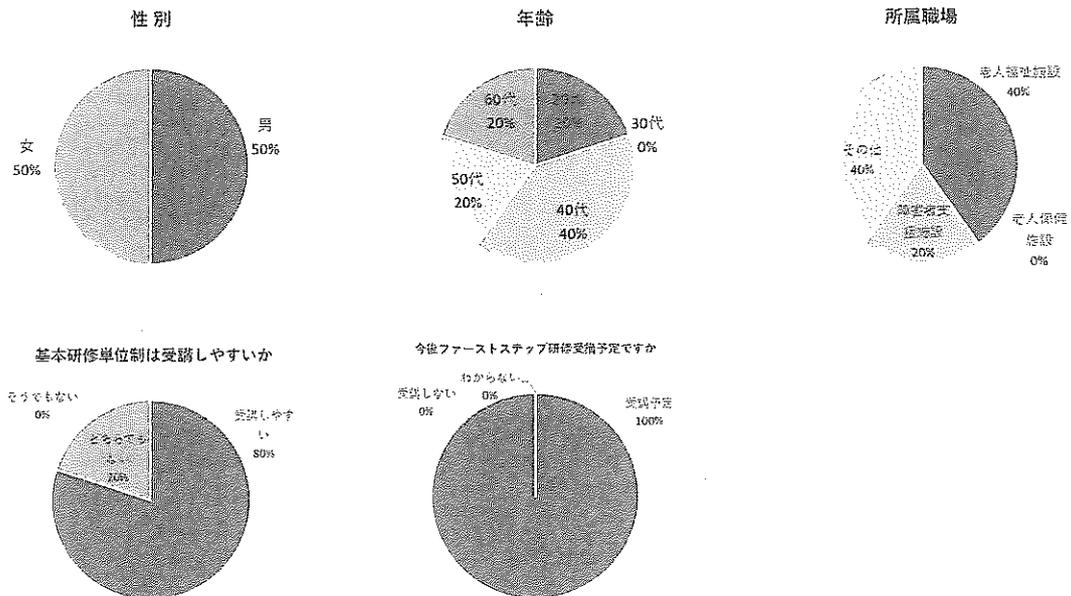
- 災害はいつどこで起こるか分からないので減災できるように準備しておく必要がある。
- 机上訓練も有効である。避難所での介護福祉士の役割。その場面で自分ができるのか不安を感じた。

- 備え＝災害は来るもの！
- 正常性バイアス⇒私は大丈夫＝過小評価＝逃げ遅れ（状況把握）
- ローリングストック方式
- 垂直避難
- エアストレッチャー＝水でも深く浸水
- 寄り添いと介護の力
- 人命最優先
- ボランティア＝健康管理
- 目立つ＝手を出しすぎる、過剰な介護
- 自施設では、災害に対して消防訓練以外に具体的な対策がされていないので、この研修で学んだことを活用したいです。物品の備蓄の再確認・連絡網の整備に着手していきます。
- 災害時の避難訓練（エアストレッチャー）
- 職員だけでなく、利用者様も災害訓練を体験して頂き、常日頃から、心の準備をしておくこと。
- 普段から被災設定とシミュレーションし、減災と2次災害予防に努めることと、自分自身の健康管理の必要性（被災者主体、被災者優先）
- 災害が起きた時の対策用のマニュアルや備蓄品の配置や避難経路などの作成や用意する必要がある。どの利用者様を1番に助けるのか、障害の強い利用者様をどのようにして助けるのか考える必要があった。
- 災害になったらどうすべきかを学んで、いざという時に動けるようにすることが大切だと学びました。
- 普段からいろんなことを想定して減災について考えさせられました。
- 災害は起きてからでは動けない。日頃からの訓練が大切だと思いました。
- 助かった命を介護で出来る事は沢山ある。他職種と協力していく。チームワークを発揮する。
- 車椅子の方の垂直避難の方法について、考えさせられました。夜勤時は、1フロア 20 人の利用者様を一人で担当しているので災害時の対応について、検討の必要性を感じました。
- エアストレッチャーの活用や福祉用具の活用、災害でも福祉用具が役立つこともあることを学んだ
- 緊急連絡網について
- 備蓄品は分散させる
- 欠勤率によって業務を縮小させる（基準を作っておく）
- DWAT の活動について興味があります。またご相談させてください。
- 欠勤率で業務を調整するという考え方は大変参考になりました。災害援助協定に関しても自施設がどのような状況なのか確認したいと思います。BCP していても内容がわからないので、確認したいと思います。
- 災害対策の大切さ。大阪には DWAT があることは知っていましたが、改めて詳しく学べてよかったです。私自身も参加したいと思いました。
- 災害時、利用者様優先に避難して頂くためにどのように行うのか考えました。備蓄について確認の必要があると感じました。

問.ファンデーション研修に対するイメージやその他ご要望などを教えてください。

- ファンデーション研修・ファーストステップ研修共々、各々の施設に研修の案内が配られていたら出席しやすいように思います。仕事が休めないのが困ります。理解のある職場に移るべきか…と考えてしまいます。
- 受講時間が学びやすい設定である。
- 介護技術の分野にもなると思うが、排泄ケア、嚥下障害等詳しく学習したい(自分の振り返りも含む)
- 救命処置の方法やリスクマネジメントの研修をやって欲しい。
- 時間帯がいい時間帯だから聞きやすかった。
- 研修場所が日によって違うので少しややこしいです(名称も似ているので)
- いろいろと勉強になります。
- いつもわかりやすく講義をしていただき、知識の補充に役立っています。ありがとうございます。
- グループワークもいいなと思いました。
- 今後もよろしくお願い致します。
- いつ起こるか分からない災害なので、日頃から意識が必要だと感じました。
- まだ2回しか受講していないのですが、改めて基礎を学べるのは刺激になりいい学びの機会になっています。ありがとうございました。
- いつも有難うございます。わかりやすい研修です。

Ⅲ.令和2年12月22日 認知症ケア①



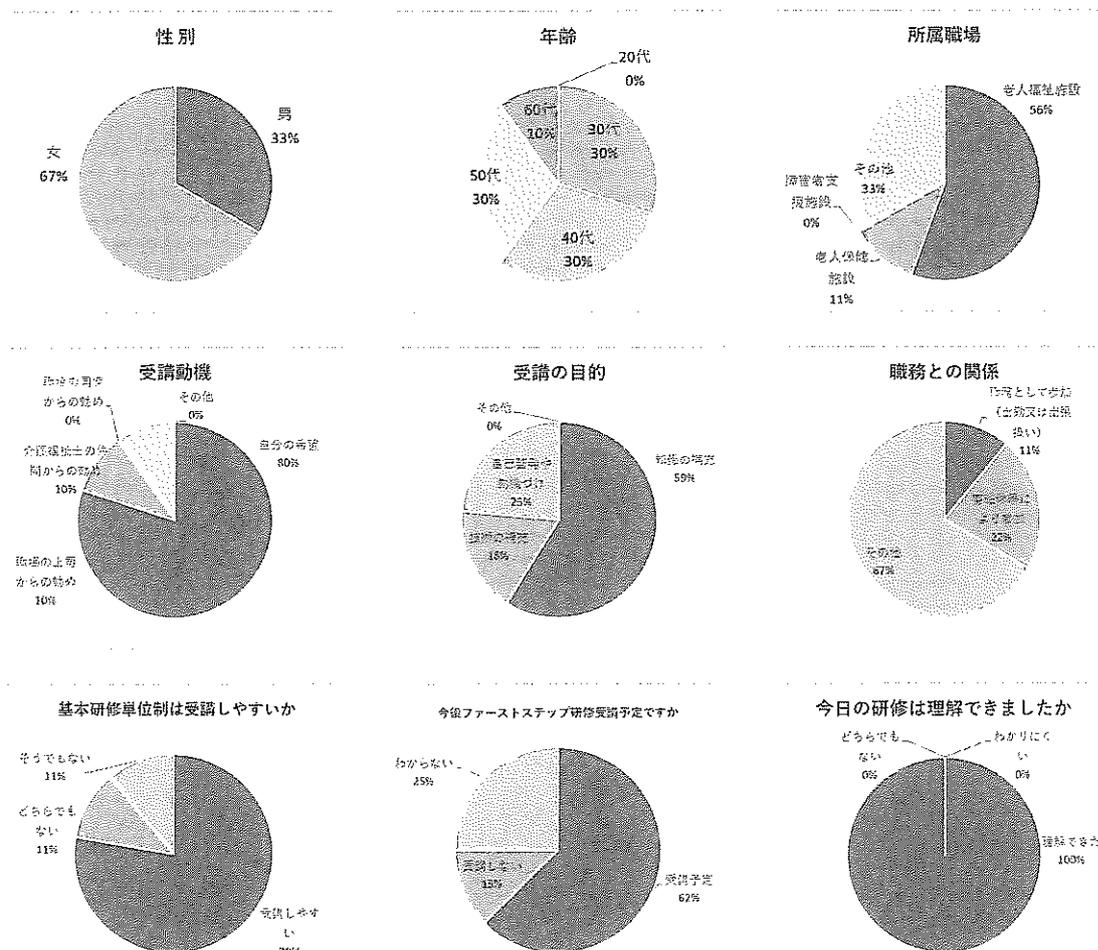
問.今日の研修は理解できましたか。

- 認知症の利用者様へのそれぞれの対応の仕方・違いを知り関係を気づいていくことの大切さ
- とても分かりやすくいつまでも講義を受けていたと思いました。脳の仕組みの話など本当にストーンと腑に落ちました。また講義受けてみたいです。
- $7 \pm 2$ (10個の種類を覚えて)
- 脳の活性化
- 文字を読む 活性酸素＝肝臓（飲みすぎ、食べ過ぎは×）
- 認知症＝早期発見、早期治療
- 声を出して読む＋体を動かす 教員は認知症になりやすい（定年後）
- 簡単な計算 銀行員も公務員
- 認知症は早期発見・早期治療を行い、進行を遅らせる必要があること。日ごろから本を声に出して読む、簡単な計算をすることをしたいと思います。
- 認知症とうつ病の違い？医療認知症の症状の対応についてのこと

問.この研修で学んだこと、印象に残ったことについて教えてください。

- わかりやすく楽しい時間でした。ありがとうございました。
- インターネットで申し込みできるようになったのは嬉しいです。来年度のファンデーション研修の日程が早く知りたいです。2単位の研修を1単位ずつにして頂ければ、参加しやすいです（18:30~20:00×2）
- 今後認知症ケアについての対応策の研修をもっとしてほしい。

## IV.令和3年2月26日 介護に必要な感染症知識



問.この研修で学んだこと、印象に残ったことについて教えてください。

- このコロナ禍でとても感染症について興味をもち、正しく理解しようと楽しみにして参加した。感染源が1つだとしてもうろろろすることにより感染を広げてしまうことを実験を通し体験した。留意することを実感した。
- 感染源になる人が一人でもいると、感染源の人と直接接触していなくても二次感染していることが実験でよく理解できた。また、日頃から、嘔吐物処理に備えて、ガウンキットや ごみ袋などすぐに持ち出せるよう準備しておくことが必要であることを改めて実感できました。
- 職場では手洗いも消毒も忙しさにかまけて、おろそかになっていたことと改めて気付かされました。
- 実際に手についた汚れを見て、手洗いは少しではいけないと体感しました。「正しく恐れる」大切なことだと思いました。
- 研修内容全部が印象に残りました。この時期に感染症の勉強が出来たことを感謝します。
- ハイターを使用してのノロウイルスに対する処理方法がこれまで自施設で行っていた対策よりも徹底した方法が必要であると学ぶことができました。また、ワークでの感染状況でもクラスターや感染の仕組みがわかりやすかった。
- 手洗いが予想以上に汚れが残っていた
- 実際に手洗いをしてどの位の汚れがついているのか、感染の実験をするなど、楽しく学ぶことができました。

【第2号議案】 令和2年度決算報告の承認の件（案）

貸借対照表

令和3年3月31日現在

公益社団法人大阪介護福祉士会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金及び預金	2,981,383	146,714	2,834,669
未収入金	2,229,414	182,470	2,046,944
預け金	20,000		20,000
流動資産合計	5,230,797	329,184	4,901,613
2. 固定資産			
(1)基本財産			0
基本財産合計	0	0	0
(2)特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3)その他の固定資産			
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	8	8	0
固定資産合計	8	8	0
資産合計	5,230,805	329,192	4,901,613
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,318,784	470,716	848,068
預り金	185,728	108,424	77,304
未払消費税等	1,005,100	450,100	555,000
仮受金	14,420	14,420	0
流動負債合計	2,524,032	1,043,660	1,480,372
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	2,524,032	1,043,660	1,480,372
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	2,706,773	△ 714,468	3,421,241
正味財産合計	2,706,773	△ 714,468	3,421,241
負債及び正味財産合計	5,230,805	329,192	4,901,613

正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

公益社団法人大阪介護福祉士会

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	51,000	215,000	△ 164,000
受取会費	7,163,000	7,794,000	△ 631,000
正会員会費	5,903,000	6,139,000	△ 236,000
賛助会員会費(団体会員)	1,235,000	1,640,000	△ 405,000
賛助会員会費(個人会員)	25,000	15,000	10,000
事業収益	21,905,664	14,365,243	7,540,421
ファーストステップ研修	1,080,660	645,200	435,460
初任者研修	411,000	245,160	165,840
介護技術講習会	7,000	85,500	△ 78,500
サービス提供責任者研修	214,000	646,000	△ 432,000
介護福祉士模擬試験	138,000	211,000	△ 73,000
介護福祉士受験対策講座	141,500	131,000	10,500
介護福祉士模擬試験	0	79,120	△ 79,120
実習指導者講習会	1,520,000	2,993,800	△ 1,473,800
介護教員養成研修	3,883,000	4,555,216	△ 672,216
認知症実践者研修	5,523,154	3,924,816	1,598,338
講師派遣収入	326,850	593,680	△ 266,830
大阪市委託事業	8,569,000	124,000	8,445,000
その他の研修2	42,000	58,000	△ 16,000
その他の研修3	49,500	72,751	△ 23,251
受取補助金等	0	2,300,402	△ 2,300,402
日本介護福祉士会助成金	0	2,300,402	△ 2,300,402
受取寄附金	2,822,800	3,533,028	△ 710,228
雑収益	2,079,125	228,977	1,850,148
受取利息	21	16	5
雑収入	2,079,104	228,961	1,850,143
経常収益計	34,021,589	28,436,650	5,584,939
(2) 経常費用			
① 事業費	28,864,088	26,785,963	2,078,125
役員報酬	3,420,000	5,400,000	△ 1,980,000
給料手当	5,950,522	2,547,314	3,403,208
福利厚生費	1,706,812	1,377,228	329,584
旅費交通費	978,013	1,180,137	△ 202,124
通信運搬費	1,082,779	2,243,699	△ 1,160,920
消耗什器備品費	0	50,883	△ 50,883
消耗品費	668,936	257,495	411,441
印刷製本費	994,622	1,430,569	△ 435,947
図書購読料	21,097	11,009	10,088
水道光熱費	74,900	66,054	8,846
賃借料	6,528,555	6,297,698	230,857
諸謝金	4,895,611	4,116,350	779,261
租税公課	964,590	453,347	511,243
支払手数料	285,714	366,793	△ 81,079
広告宣伝費	238,167	65,679	172,488
会議費	82,280	224,970	△ 142,690
諸会費・渉外費	222,814	303,946	△ 81,132
雑費	748,676	392,792	355,884
② 管理費	1,666,260	2,363,678	△ 697,418
役員報酬	380,000	600,000	△ 220,000
給料手当	272,281	283,036	△ 10,755
福利厚生費	134,091	153,027	△ 18,936
旅費交通費	61,001	95,466	△ 34,465
通信運搬費	97,641	247,579	△ 149,938
消耗什器備品費	0	4,781	△ 4,781
消耗品費	44,701	20,337	24,364
印刷製本費	6	121,103	△ 121,097
図書購読料	343	1,224	△ 881
水道光熱費	6,365	7,341	△ 976
賃借料	359,095	561,221	△ 202,126
諸謝金	81,400	97,220	△ 15,820
租税公課	100,510	49,929	50,581
支払手数料	31,708	38,528	△ 6,820
広告宣伝費	26,464	7,299	19,165
会議費	2,751	15,541	△ 12,790
諸会費・渉外費	19,348	32,572	△ 13,224
雑費	48,555	27,474	21,081
経常費用計	30,530,348	29,149,641	1,380,707
評価損益等調整前当期経常増減額	3,491,241	△ 712,991	4,204,232
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	3,491,241	△ 712,991	4,204,232

(2)経常費用			
①事業費	28,864,088	26,785,963	2,078,125
役員報酬	3,420,000	5,400,000	△ 1,980,000
給料手当	5,950,522	2,547,314	3,403,208
福利厚生費	1,706,812	1,377,228	329,584
旅費交通費	978,013	1,180,137	△ 202,124
通信運搬費	1,082,779	2,243,699	△ 1,160,920
消耗什器備品費	0	50,883	△ 50,883
消耗品費	668,936	257,495	411,441
印刷製本費	994,622	1,430,569	△ 435,947
図書購読料	21,097	11,009	10,088
水道光熱費	74,900	66,054	8,846
賃借料	6,528,555	6,297,698	230,857
諸謝金	4,895,611	4,116,350	779,261
租税公課	964,590	453,347	511,243
支払手数料	285,714	366,793	△ 81,079
広告宣伝費	238,167	65,679	172,488
会議費	82,280	224,970	△ 142,690
諸会費・渉外費	222,814	303,946	△ 81,132
雑費	748,676	392,792	355,884
②管理費	1,666,260	2,363,678	△ 697,418
役員報酬	380,000	600,000	△ 220,000
給料手当	272,281	283,036	△ 10,755
福利厚生費	134,091	153,027	△ 18,936
旅費交通費	61,001	95,466	△ 34,465
通信運搬費	97,641	247,579	△ 149,938
消耗什器備品費	0	4,781	△ 4,781
消耗品費	44,701	20,337	24,364
印刷製本費	6	121,103	△ 121,097
図書購読料	343	1,224	△ 881
水道光熱費	6,365	7,341	△ 976
賃借料	359,095	561,221	△ 202,126
諸謝金	81,400	97,220	△ 15,820
租税公課	100,510	49,929	50,581
支払手数料	31,708	38,528	△ 6,820
広告宣伝費	26,464	7,299	19,165
会議費	2,751	15,541	△ 12,790
諸会費・渉外費	19,348	32,572	△ 13,224
雑費	48,555	27,474	21,081
経常費用計	30,530,348	29,149,641	1,380,707
評価損益等調整前当期経常増減額	3,491,241	△ 712,991	4,204,232
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	3,491,241	△ 712,991	4,204,232
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
法人税等	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	3,421,241	△ 782,991	4,204,232
一般正味財産期首残高	△ 714,468	68,523	△ 782,991
一般正味財産期末残高	2,706,773	△ 714,468	3,421,241
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,706,773	△ 714,468	3,421,241

正味財産増減計算書内訳書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

公益社団法人大阪介護福祉士会

(単位:円)

科目	公益目的事業	収益事業等	法人	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産受取利息	0	0	0	0
受取入会金	25,500	0	25,500	51,000
受取会費	3,581,500	0	3,581,500	7,163,000
正会員会費	2,951,500	0	2,951,500	5,903,000
賛助会員会費(団体会員)	617,500	0	617,500	1,235,000
賛助会員会費(個人会員)	12,500	0	12,500	25,000
事業収益	21,626,164	279,500	0	21,905,664
ファーストステップ研修	1,080,660	0	0	1,080,660
初任者研修	411,000	0	0	411,000
介護技術講習会	7,000	0	0	7,000
介護助手入門研修	0	0	0	0
サービス提供責任者研修	214,000	0	0	214,000
介護福祉士模擬試験	0	138,000	0	138,000
介護福祉士受験対策講座	0	141,500	0	141,500
介護福祉士模擬試験	0	0	0	0
実習指導者講習会	1,520,000	0	0	1,520,000
介護教員養成研修	3,883,000	0	0	3,883,000
認知症実践者研修	5,523,154	0	0	5,523,154
実務者研修	0	0	0	0
講師派遣収入	326,850	0	0	326,850
その他の研修	8,569,000	0	0	8,569,000
その他の研修	42,000	0	0	42,000
その他の研修	49,500	0	0	49,500
受取補助金等	0	0	0	0
大阪府補助金	0	0	0	0
日本介護福祉士会助成金	0	0	0	0
受取寄附金	1,411,400	0	1,411,400	2,822,800
雑収益	1,852,505	20,601	206,019	2,079,125
受取利息	21	0	0	21
雑収入	1,852,484	20,601	206,019	2,079,104
経常収益計	28,497,069	300,101	5,224,419	34,021,589

(2) 経常費用				
① 事業費	28,398,938	465,150	0	28,864,088
役員報酬	3,382,000	38,000		3,420,000
給料手当	5,923,294	27,228		5,950,522
退職給付費用	0	0		0
福利厚生費	1,693,403	13,409		1,706,812
旅費交通費	970,113	7,900		978,013
通信運搬費	1,073,015	9,764		1,082,779
減価償却費	0	0		0
消耗什器備品費	0	0		0
消耗品費	664,356	4,580		668,936
修繕費	0	0		0
印刷製本費	817,418	177,204		994,622
図書購読料	21,063	34		21,097
水道光熱費	74,264	636		74,900
賃借料	6,439,546	89,009		6,528,555
保険料	0	0		0
諸謝金	4,823,471	72,140		4,895,611
租税公課	954,539	10,051		964,590
支払手数料	282,544	3,170		285,714
支払助成金	0	0		0
支払寄附金	0	0		0
広告宣伝費	235,521	2,646		238,167
会議費	82,005	275		82,280
諸会費・渉外費	220,880	1,934		222,814
雑費	741,506	7,170		748,676
② 管理費	0	0	1,666,260	1,666,260
役員報酬			380,000	380,000
給料手当			272,281	272,281
退職給付費用			0	0
福利厚生費			134,091	134,091
旅費交通費			61,001	61,001
通信運搬費			97,641	97,641
減価償却費			0	0
消耗什器備品費			0	0
消耗品費			44,701	44,701
修繕費			0	0
印刷製本費			6	6
図書購読料			343	343
水道光熱費			6,365	6,365
賃借料			359,095	359,095
保険料			0	0
諸謝金			81,400	81,400
租税公課			100,510	100,510
支払手数料			31,708	31,708
支払助成金			0	0
支払寄附金			0	0
広告宣伝費			26,464	26,464
会議費			2,751	2,751
諸会費・渉外費			19,348	19,348
雑費			48,555	48,555
経常費用計	28,398,938	465,150	1,666,260	30,530,348
評価損益等調整前当期経常増減額	98,131	△ 165,049	3,558,159	3,491,241
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	98,131	△ 165,049	3,558,159	3,491,241
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	△ 1	1		0
法人税等	0	70,000	0	70,000
当期一般正味財産増減額	98,130	△ 235,048	3,558,159	3,421,241
一般正味財産期首残高				△ 714,468
一般正味財産期末残高				2,706,773
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高				0
指定正味財産期末残高				0
III 正味財産期末残高				2,706,773

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当事項なし

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産等の減価償却の方法

器具備品:定率法による減価償却を実施している。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

該当なし

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

該当なし

5. 担保に供している資産

担保に供している資産はない。

6. 固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
器具備品	486,365	486,357	8
合 計	486,365	486,357	8

7. 保証債務等の偶発債務

保証債務はない。

8. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価、及び評価損益

該当なし

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当なし

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当なし

11. 関連当事者との取引の内容

該当事項はない。

12. 重要な後発事象

該当事項はない。

## 財 産 目 録

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

公益社団法人大阪介護福祉士会

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
1. 流動資産			
現金預金			
現金	手許有高	運転資金として	
普通預金	りそな銀行 大手支店	運転資金として	224,979
郵便貯金		運転資金として	2,756,404
合計			2,981,383
未収入金	日本介護福祉士会	会費(25名分)	75,000
	大阪市	第4期分委託料	2,142,250
	その他		12,164
合計			2,229,414
預け金			20,000
合計			20,000
流動資産合計			5,230,797
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産合計			0
(2)特定資産			
特定資産合計			0
(3)その他固定資産			
什器備品	パソコン6台		6
	机棚 1式		1
	衣装 1組		1
その他固定資産合計			8
固定資産合計			8
資産合計			5,230,805
1. 流動負債			
未払金	リコーリース	複合機リース料	261,800
	大塚商会	消耗品・インターネット料金等	73,332
	3月研修講師謝金		334,770
	その他		648,882
合計			1,318,784
未払消費税			1,005,100
仮受金	日本介護福祉士会入会金など		14,420
預り金	源泉所得税		66,372
	令和3年度分会費預り金		90,456
	住民税		28,900
合計			185,728
流動負債合計			2,524,032
2. 固定負債			
固定負債合計			0
負債合計			2,524,032
正味財産			2,706,773

# 監査報告書

令和3年4月27日

公益社団法人 大阪介護福祉士会  
会長 浅野 幸子 殿

公益社団法人大阪介護福祉士会

監事 古川(林)隆司   
監事 鎌田 勝二 

監事は、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法及びその内容

監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について監査しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

## 2 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実  
は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

【第3号議案】 役員を選任の件（案）

定款第20条第1項及び役員選任規則第2条に基づき、役員を選任について審議ください。

任期：令和3年6月19日定時社員総会終了時から

令和5年6月の定時社員総会の終結まで

1. 理事

(敬称略 順不同)

	候補者氏名	所属・役職等	備考
1	浅野 幸子	公益社団法人大阪介護福祉士会 会長	
2	飯田 昌一	株式会社セルヴィス 施設管理者	
3	重松 義成	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団	
4	白澤 政和	国際医療福祉大学大学院 教授	
5	園山 真弓	一般社団法人大阪府作業療法士会 理事	
6	高橋 弘枝	公益社団法人大阪府看護協会 会長	
7	西尾いづ穂	社会福祉法人福生会 介護主任	
8	森垣 学	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 事務局長	
9	矢島 繁一	公益社団法人大阪社会福祉士会 副会長	
10	保倉 寿子	兵庫県立総合衛生学院 学科長	
11	山川 智之	公益社団法人大阪府理学療法士会 社会局長	
12	赤木 雅美	グループホームすみれ 管理者	
13	西田 孝司	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会老人施設部会 会長	
14	前川たかし	一般社団法人大阪府医師会 理事	
15	前田 元気	合同会社ひとつむぎ 管理者	
16	松本 浩行	通所リハビリテーションなかよし 介護主任	
17	水谷 信一	公益社団法人大阪介護福祉士会 会員	
18	渡部貴司子	公益社団法人大阪介護福祉士会 会員	
19	マリシエルオルカ	池田さつき会 特別養護老人ホームポプラ上新庄 副施設長	

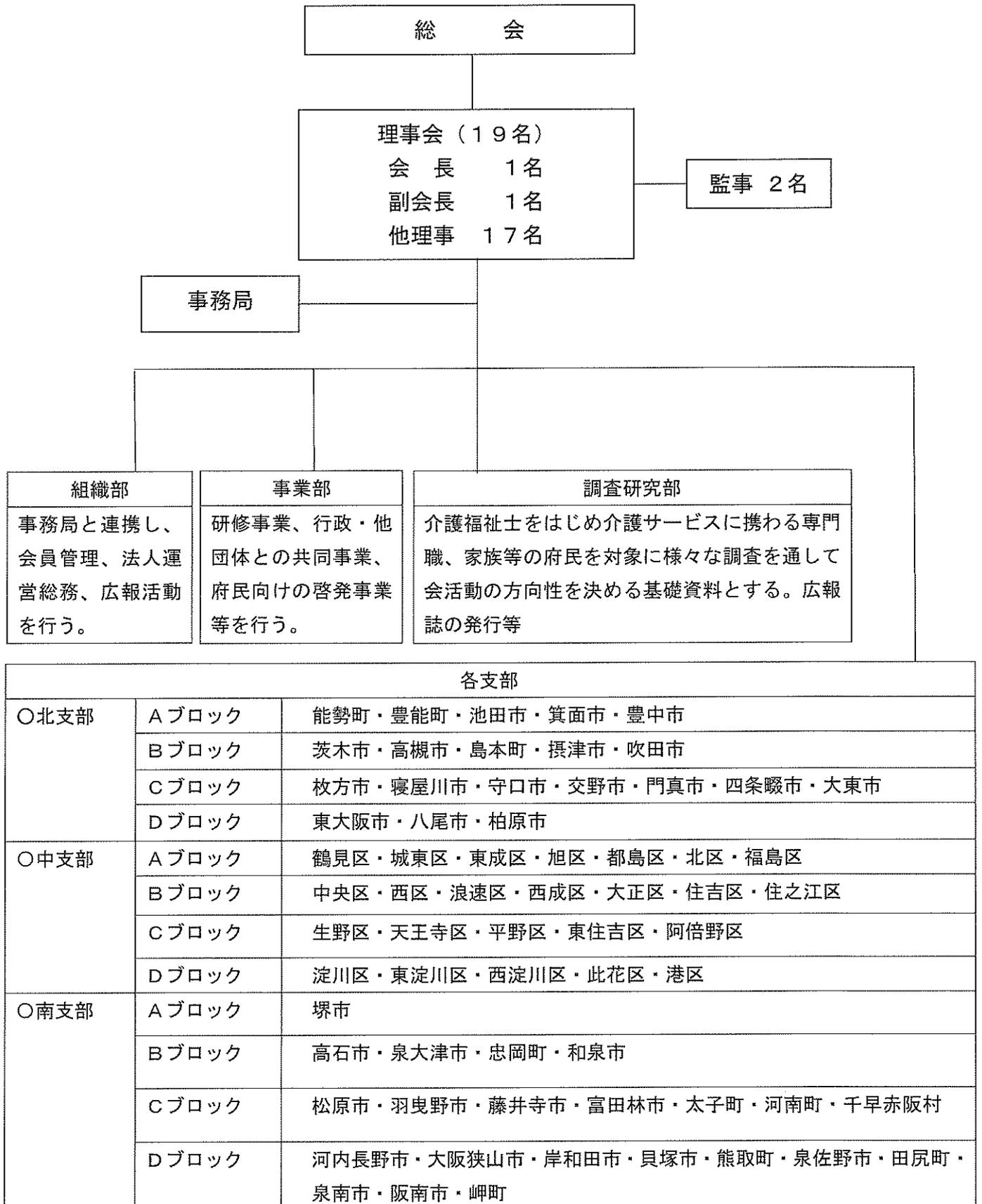
2. 監事

(敬称略 五十音順)

	候補者指名	所属・役職等	備考
1	鎌田 勝二	社会福祉法人キリスト教ミード社会館	
2	古川 隆司	追手門学院大学 教授	

# 公益社団法人大阪介護福祉士会組織図

(令和3年3月31日現在)



令和3年度 公益社団法人大阪介護福祉士会 賛助会員(法人・個人)

	名 称		名 称
1	アールワイ保険サービス株式会社大阪支店	39	公益財団法人 大阪府レクリエーション協会
2	一般社団法人 日本認知症予防協会	40	社会福祉法人 おおとり福祉会
3	一般社団法人 ヘルスケア人材教育協会	41	社会福祉法人 恩賜財団済生会 介護老人保健施設 ライフケア中津
4	医療法人 育和会 介護老人保健施設 ひまわり	42	公益財団法人 介護労働安定センター 大阪支部
5	医療法人 一祐会介護老人保健施設ハーモニー	43	公益社団法人 関西シルバーサービス協会
6	医療法人 清水会 介護老人保健施設おひさま園	44	社会福祉法人 恵生会
7	医療法人 清翠会 法人本部	45	社会福祉法人 健成会 特別養護老人ホーム加賀屋の森
8	医療法人 徳洲会 介護老人保健施設松原徳洲苑	46	社会福祉法人 功德会特別養護老人ホーム にちげつの光
9	医療法人 はあとふる 介護老人保健施設 悠々亭	47	社会福祉法人 桜会
10	学校法人 大屋学園 関西社会福祉専門学校	48	社会福祉法人 さつき会
11	学校法人 鴻池学院 鴻池生活科学専門学校	49	社会福祉法人 治栄会
12	学校法人 国際学園 星槎国際高等学校	50	社会福祉法人 四恩学園
13	学校法人 四天王寺学園 四天王寺大学短期大学部	51	社会福祉法人 成晃会 摂津特養 ひかり
14	学校法人 誠優学園 大阪社会福祉専門学校	52	社会福祉法人 玉美福祉会
15	学校法人 田島学園 近畿社会福祉専門学校	53	社会福祉法人 帝塚山福祉会
16	学校法人 箕面学園 箕面学園福祉保育専門学校	54	社会福祉法人 天寿会
17	学校法人 村上学園東大阪大学短期大学部	55	社会福祉法人 天寿会特別養護老人ホーム ひびきの郷
18	学校法人 夕陽丘学院 大阪国際福祉専門学校	56	社会福祉法人 南海福祉事業会 南海福祉看護専門学校
19	学校法人 淀之水学院 昇陽高等学校	57	社会福祉法人 上神谷福祉会特別養護老人ホーム 榎塚荘
20	株式会社 ウイズ	58	社会福祉法人キリスト教 ミッド社会館大阪コミュニティワーカー専門学校
21	株式会社 ウェル・ネット研究所	59	社会福祉法人 みらい福祉会 特別養護老人ホーム みらい
22	株式会社 大阪ホームケアサービス	60	社会福祉法人 八尾隣保館
23	株式会社 グリーンケア らくゆう会	61	社会福祉法人 隆生福祉会
24	株式会社 グロリア21	62	新光産業株式会社
25	株式会社 ねこの手	63	新日本法規出版社株式会社
26	株式会社 ミラテック	64	総合メディカル株式会社
27	株式会社 ResourcesCreation	65	大和ハウス工業株式会社
28	貴生病院	66	田中ビジネスサポート株式会社
29	グロース法律事務所	67	中央法規出版株式会社 大阪営業所
30	恵ケアホームサービス	68	東洋羽毛関西販売株式会社
31	社会福祉法人 逢花 特別養護老人ホーム きずり逢花苑	69	特定非営利活動法人 すみれ
32	社会医療法人 栄公会	70	バリアフリーカー・コンサルタント
33	社会福祉法人 エージングライフ福祉会	71	丸大食品 株式会社
34	公益社団法人 大阪介護支援専門員協会	72	有限会社 看護の科学社(休会)
35	社会福祉法人 大阪自彊館		個人賛助会員
36	社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会		1・川井 太加子 2・三好 このみ 3・飯野 矢住代
37	公益社団法人 大阪社会福祉士会		4・森本 信之 5・池田 真徳 6・西尾 勝成
38	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団		

# 日本介護福祉士会倫理綱領

1995年11月17日宣言

## 前文

私たち介護福祉士は、介護福祉ニーズを有するすべての人々が、住み慣れた地域において安心して老いることができ、そして暮らし続けていくことのできる社会の実現を願っています。

そのため、私たち日本介護福祉士会は、一人ひとりの心豊かな暮らしを支える介護福祉の専門職として、ここに倫理綱領を定め、自らの専門的知識・技術及び倫理的自覚をもって最善の介護福祉サービスの提供に努めます。

## (利用者本位、自立支援)

1. 介護福祉士はすべての人々の基本的人権を擁護し、一人ひとりの住民が心豊かな暮らしと老後が送れるよう利用者本位の立場から自己決定を最大限尊重し、自立に向けた介護福祉サービスを提供していきます。

## (専門的サービスの提供)

2. 介護福祉士は、常に専門的知識・技術の研鑽に励むとともに、豊かな感性と的確な判断力を培い、深い洞察力をもって専門的サービスの提供に努めます。

また、介護福祉士は、介護福祉サービスの質的向上に努め、自己の実施した介護福祉サービスについては、常に専門職としての責任を負います。

## (プライバシーの保護)

3. 介護福祉士は、プライバシーを保護するため、職務上知り得た個人の情報を守ります。

## (総合的サービスの提供と積極的な連携、協力)

4. 介護福祉士は、利用者に最適なサービスを総合的に提供していくため、福祉、医療、保健その他関連する業務に従事する者と積極的な連携を図り、協力して行動します。

## (利用者ニーズの代弁)

5. 介護福祉士は、暮らしを支える視点から利用者の真のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割であると確認したうえで、考え、行動します。

## (地域福祉の推進)

6. 介護福祉士は、地域において生じる介護問題を解決していくために、専門職として常に積極的な態度で住民と接し、介護問題に対する深い理解が得られるよう努めるとともに、その介護力の強化に協力していきます。

## (後継者の育成)

7. 介護福祉士は、すべての人々が将来にわたり安心して質の高い介護を受ける権利を享受できるよう、介護福祉士に関する教育水準の向上と後継者の育成に力を注ぎます。

公益社団法人 大阪介護福祉士会

事務局 〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4-15  
大阪府社会福祉会館3階

電話 06-6766-3633

FAX 06-6766-3632

e-mail [info@kaigo-osaka.jp](mailto:info@kaigo-osaka.jp)

URL <http://kaigo-osaka.jp>